

# POLE

北海道ポーランド文化協会会誌「ポーレ」  
第 44 号 2000.1.25

発行  
北海道ポーランド文化協会  
〒 060-0052  
札幌市中央区南 2 東 2  
河合楽器製作所北海道支社  
電話 011-231-8661  
FAX 011-221-4936

## 水の精の予言 (ワルシャワの起こり)

—ポーランドの都市の伝説①—

栗原成郎



ワルシャワを中心とするヴィスワ川中流域は中世以来マゾフシエと呼ばれてきました。この地域には新石器時代から集落が点在していた形跡が見られますが、ワルシャワは都市としての発達が遅れ、ヨーロッパの首都のなかでは歴史は比較的浅いほうです。旧市街(スタレ・ミヤスト)は十四世紀に、新市街(ノヴェ・ミヤスト)は十五世紀に建設されました。ワルシャワは十世紀から十四世紀まではポーランド王国の外側に位置していた未開の地で、マゾフシエ候の支配下にありました。

ワルシャワ *Warszawa* という地名は「ワルシュの村」*Warszew* *Wies* を意味し、のちに簡略化されて *Warszawa* となり、それがマゾフシエ地方の方言で *Warszawa* と発音されるようになった、と考えられています。 *Warsz* ワルシュは *Warcislaw* ワルチスワフという人名の愛称形であり、*Warszew* は *Warsz* の所有形容詞です。

地名の語源から見ると、ワルシャワという都市は「ワルシュの村」から発達したこととなります。ワルシャワの地名の起こりを説明するために民間語源説に基づいて作られたと思われる伝説がいくつか知られています。

昔、ワルシャワの辺りがうっ蒼たる森であった頃のこと、マゾフシエ地方を治めていた若い候が、ある日、従者たちを伴って狩りに出かけました。目指す獲物は野牛(当時はまだポーランドにたくさん棲息していた)です。狩り好きの候は狙いを付けていた一頭の巨大な野牛を夢中になって追いかけているうちにいつしか従者たちの一行にはぐれ、ひとり森の奥へとはいりこんで行きました。やがて夜のとばりが降り、沼地に鬼火が燃え、夜空に北極星が光るころ、ようやく候は槍で獲物にとどめを刺すことができました。人馬とともに疲れはて、候は猛烈な喉の渇きを覚え、水を求めて川辺の葦の茂みにはいって行きました。

するとにわかに水が騒ぎ、ヴィスワ川の中から水の精が現れました。それは半人半魚の美しい顔の娘で、手に弓矢を持っていました。水の精はやにわに金の矢をつがえてひょうと放ち、候に言いました。

「矢の落ちる所に行きなさい。そこにあなたを待っているものがあります。」

候は矢の飛んだ方向に向

かってヴィ  
スワ川の岸  
沿いに走り  
ました。灌  
木の茂みを  
越えて行く  
と森があ  
り、その  
大きな櫛の  
木の下に空  
き地があり

ました。昇る太陽の光を浴びて巨大な樹の梢に金の矢が輝いていました。驚いたことに森の中に人が住んでいました。櫛の樹の下の空き地には丸太小屋が建っていました。家の前には漁網が広げて干してありました。わらぶき屋根の煙突からは煙が立ちのぼり、魚を焼くにおいがしていました。

空腹を覚えて候は思わず小屋の敷居をまたぎました。挨拶をして家中を見ると、若い女が双子の赤ん坊に乳をふくませていました。「客きたる家に神宿る」(Gosć w domu Bog w domu)という諺のとおり、貧しい漁夫の妻は見知らぬ空腹の客をありあわせのものでなしました。自然の中に静かなたたずまいを見せる漁夫の小屋には宮殿にはない活力と安らぎと調和がありました。それこ



ワルシャワのシンボル  
ワルシャワの守護神  
スィレーナ(人魚)彫刻

そ候が長いあいだ求めていたものでした。

候は双子の赤ん坊の名付親を買って出て、男の子をWarszワルシュ、女の子をSawaサワと名付けました。候は漁夫の家を祝福して言いました。

「わたしはこの森の地をWarszとSawaの手にゆだねよう。二人の働きで将来ここに村ができるだろう。村は発展して他の町にまさる大きな町になるだろう。」

その候の言葉を聞いてヴィスワ川の水の精の美しい口もとから笑みがこぼれました。

WarszとSawaの一心同体の働きによりWarszawaの町は成った、という伝説です。

(創価大学教授)

## 《春の講習会》

### 第29期 ポーランド語講習会のお知らせ

ポーランド語基礎コース。

今年は基礎会話中心の講習を予定しております。ポーランドの文化や情報なども話し合う楽しい教室です。

旅行を計画の方、初めて習う方、継続の方、皆様の参加をお待ちしております。

【日時】5月17日から、毎週水曜日午後6時～8時  
7月5日まで(全8回)

【場所】北海道クリスチャンセンター  
札幌市北区北7西6(電話 736-3388)

【講師】高岡美保、ハモウダ マジェーナ

【会費と申し込み】

1万円(8回分)初回会場にて申し受けます。

【お問い合わせ】

富山まで(電話 551-7698)

秋の講習会(第30期)については、9月中旬開始の予定。詳細は別途ご案内します。



## 第39回例会ご案内

### ビデオによるポーランド映画鑑賞会

# 「鷲の指輪」 アンジェイ・ワイダ監督

日時 2月18日(金)午後6時30分～

会場 かでる2・7 (中央区北2条西7丁目) 特別会議室

解説 本間富雄氏(北海道ポーランド文化協会運営委員)

会費 無料



目標達成のために、複雑な要因の中から、条件に最適のカードを選び出す方法を、社会学で「ゲームの理論」と名付けている。

GAMEにはそのほか、攻撃の目標、猟の獲物、えじきといった意味もある。当時、ヨーロッパの中央に位置したポーランドは、周辺の軍事大国から見れば、まさにゲームそのものだった。

一九三九年九月一日、午前五時四五

分、ドイツ

軍機甲

部隊によ

るポーラ

ンド進撃

が突然開

始され

た。

その八

日前にベ

ルリンで、ドイツ・ソ連不可侵条約が結ばれ、ポーランド東西分割の密約が成立していた。そのことを知らなかった日本政府は、十五日にソ連と、ノモンハン休戦協定を結んだが、ソ連は翌々日、ポーランドに進攻した。

密約、奇襲、裏切りは、戦争の定石である。それによって当事者は初則利得(裏切りの利益)を簡単に手に入れることができる。しかし、その利得を

## 「鷲の指輪」と

## ゲームの理論

本間 富雄

保全するためには、その後の相手の反撃、報復力、周囲の国からの制裁等のマイナス要因を考えて、最終利得を計算しなければならぬ。

当然、ポーランドはその前年、ソ連との間に不可侵条約を結んでいた。ソ連はその年、さらにフィンランドに進攻し、ついに国際連盟から除名されることになるが、二年後のドイツとの開戦で再び、連合軍の支持を取りつけ、日本への侵攻を含めて、大戦の勝利国

となるこ  
とができ  
た。

この映  
画のテー  
マは、一  
九四四年  
八月一日  
から十月  
二日に至

るポーランド市民のドイツ軍に対するワルシャワの蜂起から壊滅に至る物語りである。目前まで来ていながら救援にこなかったソ連軍のことも含めて、八九年のベルリンの壁崩壊がなければ作られることのなかった映画である。アンジェイ・ワイダ自身の十代のときの体験をふまえて、西欧世界へ送る痛恨のメッセージでもある。

# ユゼフ・ヴィルコンの世界

斎田道子

六月十一日から七月二十五日まで、ポーランドの絵本作家「ユゼフ・ヴィルコン展」が小樽の「森ヒロコ・スタシス美術館」で開かれました。

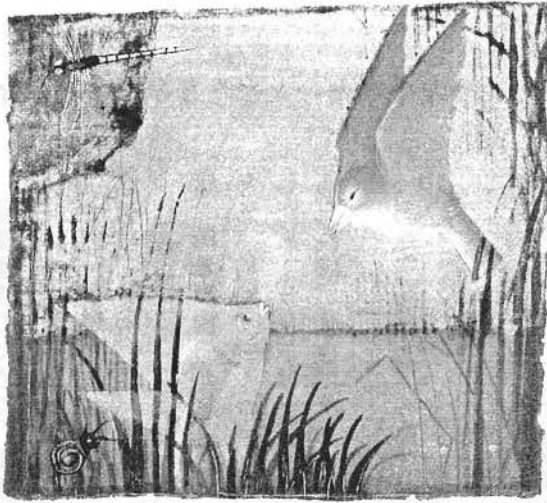
会場には絵本の原画一八一点、日本で出版されている絵本などが展示されていますが、中でも目をひいたのが、金属や木材で作られた彫刻五十二点でした。ギョロ目をむいた金色のサカナが天井から下がっていたり、子ガモたちを引き連れた母ガモが床の上にいたり—と、ヴィルコンの創作した世界が会場にいっぱいでした。

ヴィルコンは一九三〇年に生まれ、クラクフの美術アカデミーで絵画を学びました。一九五七年からイラストレーター・グラフィックデザイナーとして世界的な活動をしています。百冊以上の子どもや大人の本

の制作に携わり、六十冊はポーランド以外の国で出版されています。

自分の作品がどんな会場に展示されていたのか見たい—と、十月に森ヒロコ・スタシス美術館を訪れました。

ヴィルコンは小樽に来る前に、大分・雲仙を訪れました。雲仙では子どもたちを対象にワークショップを開催。ヴィルコンが廃材の山から、インスピレーションを受けて



「いっしょにいたらたのしいね」

材料をえらび出し、その場で犬や鹿・ワシなどを作り上げる。それを見ていた子ども達も同様に思っておもいに自分の作りたいものを作るという作業でした。

ヴィルコンは、「こんなすばらしいワークショップは今まで経験したことがない。子ども達は自然のものからエネルギーをもらっている。このような子どもたちとの交流を通して自然の姿に学び、エネルギーを得ることが出来る。子どもたちは展覧会を見に来て大喜びしている。お互いことばは通じないが必要ない。作品は直接語りかけるのだから。」と

いっています。

私が好きな一冊の絵本についておききました。

「いっしょにいたらたのしいね」という本です。金や赤や青をふんだんに使って、はなや



(展覧会風景)

かな日本画のような感じですが、事実、日本画の影響を受けているそうです。印刷はイタリアで、新しいテクニックを用いて金の処理をしたとのこと。ヴィルコンにとっても好きな一冊だそうです。

質問に答えてくれるヴィルコンはやさしいおじさまといった感じでした。これからも豊かな想像の世界を創りつけて、私たちをたのしませてほしいと思いました。

# 本年度の事業計画決まる

一九九九・二〇〇〇年度総会

ますみ

(一) ショパン

の幻想即興曲作

品六六(演奏)

田口綾子

(二) ショパン

のバラード作品

水田香

(三) ショパン

の挨拶と乾杯があり、ポーランド民

謡の合唱の飛び入りなどもあり、に

ぎやかなパーティーとなりました。

最後に監事の吉田宏氏の乾杯で懇親

会の幕を閉じました。なお、総会

で承認された議案の内容は以下の通

りです。

前年度の主催事業

《例会》

▼第三十四回例会三浦 洋氏「ショ

パンについて」十月十七日(土)す

みれホテル(参加者三十五名)

▼第三十五回例会 ミコワイ・メラ

ノビッチ氏「ポーランドに於ける日

本文学の現状について」一月十六日

(土) すみれホテル(参加者二十六

名)

▼第三十六回例会 イガ・ロドビツ

チ氏「ポーランドの演劇について」

三月二日(火) すみれホテル(参加

▼第三十七回例会 ビデオによる

ポーランド映画鑑賞会「聖週間」九

月二十五日(土) かでる2・7(参

加者十八名)

▼第三十八回例会 ポーランドの

フォークダンスのつどい十月十一日

(月) 札幌市女性センター(参加者

六十三名)

▼クラコフ日本美術工芸センター支

援バザー 昨年度からの繰越(五

三、六六〇円) 六月十二日(四二、

三〇〇円)

《ポーランド語講習会》

▼第二十六期 一九九八年十月七日

(水) より八週間(参加者七名)

▼第二十七期 一九九九年五月十二

日(水) より十週間(参加者十一

名)

▼第二十八期 一九九九年 九月二

十九日(水) より八週間(参加者七

名)

《その他》

▼ポレ発行 第四十一号(十二月

一〇日) 第四十二号(五月三〇日)

第四十三号(八月三〇日) 計三回

▼総会 一九九八年十月十七日(す

みれホテル)

▼運営委員会 十月七日、六月二十

三日、九月二〇日

《主催事業》

後援会、音楽会、映画会など三

回程度行う

《後援事業》

音楽会、展覧会、映画会などを

適宜行う

《ポーランド語講習会》

初級、中級クラスを年間各一シ

リーズ程度行う

《その他》

会誌ポレ発行(年間三回)

総会二〇〇〇年十月ごろ

運営委員会 三回程度

二〇〇一年の夏または秋を目指

し、第三回目のポーランド訪問団

の派遣を検討することにした。

本年度役員

(本年度からの2年任期)

会 長 谷本 一之

副会長 遠藤 道子

運営委員

安藤 厚・薄井 豊美

小林 暁子・斎田 道子

佐々木保子・霜田千代麿

鈴木 英明・高岡 美保

中島 洋・灰谷 慶三

本間 富雄・三浦 洋

安田 誠子・吉野 悦雄

渡辺 卓

本年度の総会が十月十五日

(金) 午後六時半より、すみれホ

テルで行われました。総会では、

谷本 一之会長による挨拶がありま

した。

総会は、小笠原 昭子氏の司会で

以下のような順序で行われまし

た。

(一) 一九九八・九九年度事業お

よび決算報告、監査報告

(二) 一九九九・二〇〇〇年度事

業計画と予算

(三) 新年度役員について

(四) 協会財政の立て直しについ

て

(五) 協会活動の見直しについて

(六) その他

このあと懇親会に入り、会食に

先だって次のようなピアノ演奏が

行われた。

(一) ショパンのワルツ作品六九

〜二、作品三四〜三(演奏) 片寄

## 1998・1999年度会計決算

【収入の部】	予 算	決 算	内 訳	単位：円
会 費	400,000	406,200	会費全額の83%、郵便振替払出料差引後	
仮受金	0	89,910	ポーランドへ送金予定	
その他	1,000	3,258	銀行利息・寄付	
小 計	401,000	499,368		
繰越金	627,373	627,373		
合 計	1,028,373	1,126,741		

【支出の部】	予 算	決 算	内 訳	単位：円
事業費	310,000	261,932	例会：185,514 総会：53,230 語学講習会：23,188	
連絡費	100,000	93,490	ポーレ発送、はがき・切手他	
編集費	30,000	34,570	ポーレ制作費、原稿料他	
会合費	30,000	62,625	運営委員会他	
事務費	190,000	168,557	人件費、事務用品	
予備費	338,373	24,750	競別等	
小 計	998,373	645,924		
繰越金	30,000	480,817	銀行預金:158,760 郵便局:227,300 現金:94,757	
合 計	1,028,373	1,126,741		

## 1999・2000年度会計予算

【収入の部】	前年度決算	予 算	内 訳	単位：円
会 費	406,200	400,000		
仮受金	89,910	0		
その他	3,258	1,000	銀行利息・寄付	
小 計	499,368	401,000		
繰越金	627,373	480,817		
合 計	1,126,741	881,817		

【支出の部】	前年度決算	予 算	内 訳	単位：円
事業費	261,932	270,000	総会補助:90,000 例会:130,000 語学研究会補助:50,000	
連絡費	93,490	95,000	ポーレ発送3回、その他	
編集費	34,570	35,000	ポーレ制作費、原稿料他	
会合費	62,625	53,000	運営委員会他	
事務費	168,557	190,000	人件費、事務用品	
寄付	0	89,910	バザー収益金をポーランドへ送金	
予備費	24,750	148,907		
小 計	645,924	881,817		
繰越金	480,817	0		
合 計	1,126,741	881,817		

ポーレ編集委員

小笠原正明・斎田 道子

佐々木保子・高岡 美保

三浦 洋

監査委員 富山 信夫

吉田 宏

事務局長 小笠原正明

協会財政の立て直しについて

会員の減少、とくに団体会員の減少に伴って収入が減り、この二、三年繰越金が大幅に減っている。このままで行けば再来年には赤字となることが予想される。会員数の大幅な増加はむしろかきいと思われるで、五〇〇〇円会員の維持会員を増やすよう努力する事になった。

協会活動の見直しについて

協会役員の固定化が進んでいる。若い世代に積極的に働きかけ、新しい風を呼び込むよう努力したい。

「ポーレ」編集委員会

小笠原正明・斎田道子

佐々木保子・高岡美保

三浦 洋

〔連絡先〕

621・1738 (斎田)

## POLE 第 44 号(2000.1.25)目次

栗原成郎「ポーランドの都市の伝説①水の精の予言(ワルシャワの起こり)」	1
第 29 期ポーランド語講習会(2000.5.17~7.5)のお知らせ	2
〈第 39 回例会〉ビデオによるポーランド映画鑑賞会『鷲の指輪』(解説:本間富雄、2000.2.18)のお知らせ、 本間富雄「鷲の指輪とゲームの理論」	3
斎田道子「ユゼフ・ヴィルコンの世界」	4
1999~2000 年度総会(1999.10.15)報告	5